令和元年度沖縄県振興審議会　第２回文化観光スポーツ部会議事録

１　日　時　令和元年９月３日(火)　13：30～15:35

２　場　所　八汐荘　屋良ホール

出席者

【部会委員】

部会長	下地　芳郎	沖縄観光コンベンションビューロー会長
副部会長	平田　大一	沖縄文化芸術振興アドバイザー
	小島　博子	一般社団法人日本旅行業協会沖縄支部副支部長
	前田　裕子	公益財団法人名護市観光協会理事長
	當山　智士	一般社団法人沖縄県ホテル協会会長
	東　良　和	沖縄ツーリスト株式会社代表取締役会長
	佐野　景子	独立行政法人国際協力機構沖縄センター所長
	與那嶺善道	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団理事長
	ﾐｹﾞｰﾙ･ﾀﾞﾙｰｽﾞ	沖縄空手案内ｾﾝﾀｰｽﾀｯﾌ・月刊「沖縄空手通信」編集者
	原田　宗彦	一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構会長
	石原　端子	沖縄大学人文学部福祉文化学科健康ｽﾎﾟｰﾂ福祉専攻准教授
	大　城　學	岐阜女子大学沖縄サテライト校教授
	富田めぐみ	合同会社琉球芸能大使館代表

（欠席）

佐久本嗣男	公益財団法人沖縄体育協会理事長
渡嘉敷通之	公益財団法人沖縄体育協会専務理事

【事務局等】

文化観光スポーツ部：新垣文化観光スポーツ部長、新垣文化振興課長、
金村スポーツ振興課長、伊田交流推進課長、
金城県立博物館・美術館副館長、比嘉県立芸大教務学生課長、
仲里班長(観光政策課)

１．開　　会

【事務局　仲里班長(観光政策課)】

定刻になりましたので、これから沖縄県振興審議会第２回文化観光スポーツ部会を進めてまいりたいと思います。

本日、進行を務めます文化観光スポーツ部観光政策課の仲里と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会の前にお手元の配付資料の確認をお願いしたいと思います。

まず頭から、次第がございまして、配席図、出席者、それから今回はお配りしておりませんけれども、前回お配りいたしました総点検報告書の原案の冊子、それから資料１から７に関しましては、前回の文化観光スポーツ部会の配付資料となっておりまして、本日はお配りはしておりません。

資料８：沖縄 21 世紀ビジョン基本計画等検証シートについて。

資料９：沖縄 21 世紀ビジョン基本計画等総点検報告書(素案) 第３章 所掌箇所一覧。

資料 10:沖縄 21 世紀ビジョン基本計画等総点検報告書(素案) 第３章 所掌本文(抜粋)。

資料 11：令和元年度沖縄県振興審議会第１回文化観光スポーツ部会議事要旨。

それから、資料番号は振っておりませんけれども、審議結果(案)というものが最後についているかと思います。

なお、資料につきましては、５回の部会を通して通し番号でナンバリングをしておりますので、これは資料の種類が多くて随時更新されていく形になっておりますので、その都度資料番号を付すのではなくて、同じ資料番号の最新版として必要に応じて配付をしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

以上ですけれども、資料の御不足等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

本日は総点検報告書(素案)の第３章を中心に審議いたしますけれども、第３章は平成 24 年度から始まる現計画、いわゆる 21 世紀ビジョン基本計画の中で実施してきました文化観光スポーツ部関連のそれぞれの基本施策の推進による成果とその対策が今回の審議テーマとなっております。

本日の審議テーマの内容としましては、文化芸術の振興、スポーツアイランド沖縄、それから海邦交流拠点の形成の３つのテーマとなっております。

それでは、これから審議に入りますけれども、沖縄県振興審議会運営要領第３条第３項の規定によりまして、部会長が会務を総理することとなっておりますので、下地部会長に議事進行をお願いしたいと存じます。下地会長、よろしくお願いいたします。

【下地部会長】

皆さん、こんにちは。これから第２回の文化観光スポーツ部会を始めさせていただきます。

第１回目が８月９日ということで、１カ月前になりますけれども、第１回目の部会に参加できなかなかった委員の皆さんが本日参加されておりますので、一言簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。それでは、平田副部会長から御挨拶をお願いいたします。

【平田副部会長】

ハイサイ。皆さんこんにちは。

８月９日はちょうど阿麻和利の関東ツアーの出発の日に当たりまして、台風のさなかでしたけれども何とか無事に参加できましたが、こちらには出席できませんでした。

今回が第１回目の出席になります。ぜひ皆さんと一緒にいろいろと意見を交わしたいと思います。よろしくお願いします。平田大一です。よろしくお願いします。

【下地部会長】

よろしくお願いします。

続きまして、原田委員の御挨拶をお願いいたします。

【原田専門委員】

初めまして。原田と申します。今早稲田大学で教えながら、一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構の代表理事をやっております。

今スポーツ庁と一緒にスポーツツーリズム需要拡大の委員会、あるいは武道ツーリズムの啓蒙の委員会を動かしておりまして、沖縄の話題は頻繁に出ておりますので、非常に期待するところが大きいので、今回できる範囲で貢献させていただきます。よろしくお願いします。

【下地部会長】

よろしくお願いします。

続きましてミゲール(・ダルーズ専門)委員、お願いいたします。

【ダルーズ専門委員】

ボンジュール。フランス人です。

沖縄空手会館の中にある沖縄空手案内センターで２年半前からやっていて、その前もいろいろ空手に関していろいろな活動をやっていて、空手の部分と文化の部分のことだけ話せたらと思っていますのでよろしくお願いします。

【下地部会長】

よろしくお願いします。

それでは、佐野委員からお願いいたします。

【佐野専門委員】

皆さんこんにちは。国際協力機構（ＪＩＣＡ）沖縄センター所長の佐野と申します。

前回はちょうどボリビアでオキナワ移住地の道路の起工式がございまして、沖縄から出席するためにこちらは欠席させていただきました。

活発な議論に参加できるように頑張りたいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

【下地部会長】

ありがとうございました。

それでは、続きまして與那嶺委員、お願いいたします。

【與那嶺専門委員】

皆さんこんにちは。沖縄県国際交流・人材育成財団の與那嶺と申します。

前回は財団の業務等ございまして参加できませんでした。後日事務局から内容等を聞いて、膨大な内容を審議しているのだなということで大変感心しております。

いろいろと勉強したいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

【下地部会長】

ありがとうございました。

それでは、東委員、お願いいたします。

【東専門委員】

皆さんこんにちは。沖縄ツーリストの東でございます。

前回は、私は甲子園に沖尚の応援に行ってまいりましたけれども、遊びではありませんで、沖尚を甲子園に送る会副会長としてどうしても行かないといけなかったので、後ろ髪を引かれる思いで行ってきました。

きょうこうやって出席すると、本当にすごい面々が集まってらっしゃるので、これからも心置きなく欠席できるかなと思っております。

うそです。なるべく出席するように、最優先しますけど、ただ秋にはもう既に前々から海外出張が結構入っていましたので、あまり言うとドツボにはまるので、どうぞよろしくお願いします。

【下地部会長】

何と言っていいかよくわかりませんけども、東委員にはぜひ欠席のないようにお願いをしたいと思います。東委員の日程にも合わせて開催できればと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、きょうも結構盛りだくさんのテーマですので、議事を進めさせていただきます。

本日の審議事項、式次第を見ていただきたいのですが、①沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)総点検報告書(素案)第３章ということになっておりますので、①の部分について事務局から説明をいただいて、委員の皆さんから御意見をお伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

１.沖縄振興審議会　第２回文化観光スポーツ部会

①沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)総点検報告書(素案)

第３章 基本施策の推進による成果と課題及びその対策(文化観光スポーツ部会関連)

(1)文化芸術の振興

(2)スポーツアイランド沖縄

(3)海邦交流拠点の形成

【事務局　仲里班長(観光政策課)】

それでは、事務局から先に説明をさせていただきたいと思います。恐縮ですけれども着座にて御説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第１の①につきまして、お手元の資料８の沖縄21世紀ビジョン基本計画検証シートについてを使って御説明をいたしますので、よろしくお願いいたします。

まず説明の流れとしまして、初めに検証シートの見方について御説明をさせていただいた後に、本日の３つの審議テーマについて関係各課より、時間の都合もございますので、大変恐縮ではございますけれども、その中から代表的な検証シートについてそれぞれから御説明をさせていただきたいと思います。

それでは、お手元の資料８の２ページ目をお開きください。

検証シートは、施策展開に位置づけられました成果指標の動向に、政策ツールであります予算事業や沖縄振興特別措置法に基づく税制、特例措置、配慮規定などがどのような影響を与えたのか、外部環境などの背景や要因を分析することを目的に作成しているものでありまして、総点検報告書(案)第３章の審議の参考となる資料となってございます。

検証シートを活用した審議の具体的な視点といたしましては、まず１つ目に目標は達成

されているのか、それから目標が達成できていない理由は何なのか、取り組みが不足しているのか、外部要因なのか、そしてこれまでの取り組みは目標の達成にどの程度寄与していたのか、こういった観点からそれぞれの取り組みの成果の検証や今後の課題の洗い出しを行う際の資料として御活用いただきたいと考えております。

続きまして３ページ目をお開きください。検証シートの見方ですけれども、まず表の上から将来像、５つの将来像がここに入ってまいります。次の行に基本政策、３行目に施策展開と続いて記載をされております。検証シートにつきましては、基本的に３行目の施策展開ごとに作成されているとお考えいただければと思います。

その次に上段の黄色い枠の中に、それぞれ施策展開ごとに設定しました成果指標が記載されております。その下の中段にまた黄色い項目で政策ツールとございますけれども、こちらが成果指標に関連する主な予算事業が記載されております。

その右側をご覧いただきますと、上に背景・要因の分析とありまして、各成果指標のそれぞれについて、達成状況とその背景や要因を記載する形となっております。

この検証シートにつきましては、特に右側の成果・要因の分析ですとか、あと成果指標そのものの記載内容について御意見、御質問をいただければと思います。

なお、本部会の所管いたします成果指標や事業、取り組み等は、検証シートの中の赤い線で囲って表示しております。同じ施策展開ごとに取りまとめられておりますので、他部会に関するものも入ってきております。赤で囲われたところが当部会の所管する事項ということで参考にしていただければと思います。

続きまして４ページをお開きください。こちらが政策ツールのその他の部分でして、予算事業以外でも、例えば税制、努力義務、特例措置等に該当する項目がある場合はこちらが記載される形になっております。特にない場合は空欄となっておりますけれども、こちらが続きの様式となっております。

続いて５ページをご覧ください。５ページの検証シートの成果指標及び予算事業に係る達成状況の評価基準について記載をしております。達成度合いですけれども、それぞれ成果指標の項目、それから政策ツールの項目の予算事業の部分で一番右端の縦列に達成状況の欄がございます。検証シートを御確認の際に、こちらも御参照いただければと思います。

成果指標、予算事業、それぞれの評価基準になりますけれども、目標が達成した、達成見込みとかありますけれども、まず成果指標に関しましては、最終年度の令和３年度の目標値から基準値を引いたものが、今現状として達成がどの程度までいっているのか、その

達成度合いに応じて、100％を超えていれば目標達成、70％から100％未満であれば達成見込み、そういった形で記載がされております。

予算事業も基本的には同じですけれども、平成30年度事業の実施に当たって設定しました年度の目標に対して成果がどれだけあったかの評価として、ＰＤＣＡとしてそれぞれ達成度合いに応じて、区分が達成、おおむね達成、進展、進展遅れという形で記載がなされております。

以上が検証シートの説明になりますけれども、資料9をご覧いただければと思います。

資料9が今回の第３章の文化観光スポーツ部会が所掌する箇所の一覧となってございます。こちらも御参照いただきながら御確認をいただければと思いますけれども、今回お配りしております検証シートは全部で16ございます。項目は１から18までございますけれども、１つ検証シートの作成がないもの、総点検報告書(案)には記載のみの部分でございますけれども、もう１つ二つの課にまたがる検証シートがありまして、ダブりで２つ掲載しておりますけれども、18項目のうち本日お配りしている資料８の検証シートは全部で16ございます。

本日の審議テーマごとで見ますと、まず文化芸術の振興ということで、ナンバーの１から６、それから10、17の８項目ございます。

それから、スポーツアイランド沖縄に関しましては、２枚目の項目番号７番から９番、それから16番と18番の５項目ございます。

最後に、海邦交流拠点の形成につきましては、３ページ目の11番から４ページ目の15番までの同じく５項目になっております。

それぞれ第３章の本文の該当ページも記載してございますので、本文も適宜御確認をいただいた上で、御意見等を賜わりたく存じます。よろしくお願いいたします。全体の説明としては以上となります。

それでは、引き続きまして、各３つの審議テーマごとに担当課から御説明さしあげたいと思います。

まずは、文化振興課からお願いいたします。

【下地部会長】

きょう初めて参加された方もいますけど、今の進め方、検証シートの５ページまで説明があって、６ページから具体的な話ですけども、ばーっと説明がされたのですがよろしいですか。

文化、観光、スポーツ、交流、この４つの分野が全体のテーマになっていますけど、今回は文化とスポーツを中心にということですので、それぞれ内容についてまず説明をしていただきますので、この検証シートを見ながらお話を聞いていただいて、質問等があればという形にしたいと思います。よろしいですか。

では、よろしくお願いします。

【事務局　新垣文化振興課長】

ハイサイ、チューウガナビラ。私は、文化振興課の新垣と申します。ユタサルグトゥ ウニゲーサビラ。

それでは、本日の審議テーマとなっております文化振興課が所管する文化芸術の振興について御説明したいと思います。恐縮ですが着座にて説明をさせていただきます。

それでは、お手元の資料 10、沖縄 21 世紀ビジョン基本計画総点検報告書(素案) 文化観光スポーツ部会 第３章 所掌本文(抜粋)の資料をご覧いただきたいと思います。

表紙をめくっていただいて目次が出てきましたけれども、２枚あけていただきまして、第３章 基本施策の推進による成果と課題及びその対策という目次の項目の中に、黄色に塗られている部分が確認できるかと思いますが、その中で文化振興課が所管する施策といたしましては、まず、１の沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島を目指しての中の(4)伝統文化の保全・継承及び新たな文化の創造、352 ページに当たる部分と、同じく(5)文化産業の戦略的な創出・育成です。

次のページの３の希望と活力にあふれる豊かな島を目指しての中の(6)沖縄の魅力や優位性を生かした新たな産業の創出(500 ページ)が文化振興課の所管するところになっております。

あと、５の多様な能力を発揮し、未来を開く島を目指しての中の(4)国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築(644 ページ)と(5)産業振興を担う人材の育成(651 ページ)が文化振興課の所管する施策等になりますので、よろしくお願いします。

それでは 353 ページをお開きください。右下の通し番号の 10 ページに当たる部分です。

ここに、ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくりの中から、しまくとぅばの保存・普及・継承の成果等について御説明いたします。

少しボリュームがあることから、中心的な施策について抜粋して説明をさせていただきたいと思います。左側に番号が振られているかと思いますが、7 行目になりますけれども、沖縄文化の基層でありますしまくとぅばを普及・継承するため、有識者や普及団体等、関

係者で構成されるしまくとぅば普及推進専門部会を平成 25 年度に設置いたしまして、10カ年の取り組み方針を記しましたしまくとぅば普及推進計画を策定いたしました。

14 行目になりますが、しまくとぅばに親しめるような環境づくりとして、県民大会の開催や普及ツールの作成、普及継承に取り組む団体への支援等を行うとともに、平成 29 年度には中核的機能を担うしまくとぅば普及センターを設置し、関係団体との連携のもと、各地域での人材養成講座や出前講座などを実施いたしました。

24 行目です。さらにしまくとぅば読本を平成 27 年度に作成いたしまして、県内の全小学校５年生、全中学校２年生に配布するなど、しまくとぅばの教育推進のための環境整備に取り組みました。

下の 32 行目です。これらの取り組みにより、県民のしまくとぅばに対する気運醸成は一定程度図られているものの、しまくとぅばを聞く機会や話す機会が減っていることなどから、しまくとぅばを挨拶程度以上話す人の割合は目標値を下回っているところでございます。

355 ページ、通し番号 12 ページをご覧ください。中段下ですが、課題及び対策について御説明いたします。

33 行目です。しまくとぅばを次世代へ継承することは極めて重要でありますが、語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばを聞く機会や話す機会が減っております。このことから、しまくとぅば普及センターを活用し、関係機関が連携することで、しまくとぅばの保存・普及・継承に向けた取り組みをより一層推進する必要がございます。

次の 356 ページをご覧ください。10 行目です。イ 文化の担い手の育成の施策のところです。内容が 357 ページの９行目に当たります。

県立芸術大学の教育機能の充実につきましては、平成 25 年度にアートマネジメント関係の講座を開設し、文化芸術をプロデュースする人材の育成に取り組むとともに、平成 28 年度にはアートマネージャーの育成を目的とした音楽文化専攻を設けました。また、大学院修士課程修了以上の研究実績を有し、研究活動を希望する卒業生に対して支援するとともに、学生が自ら進路をデザインするカリキュラムを設置するなど、芸術家として自立を促す芸術大学のインキュベート機能を強化しました。さらに、教員を対象にキャリアカウンセリング研修や文化芸術関係の企業を招いて合同企業説明会を開催いたしました。

これらの取り組みなどにより、県立芸術大学卒業生の就職率(起業含む)は目標値を上回って改善しております。

次 358 ページをご覧ください。課題及び対策について御説明をいたします。５行目に当たります。

県立芸術大学の教育機能の充実については、アートマネジメントなどの芸術に関連した分野への就業または起業を促すカリキュラムの設置などにより、教育機能を充実していくことが求められております。

続きまして、ウ 文化活動を支える基盤の形成の成果等について御説明いたします。14 行目です。

文化芸術活動を支える基盤の形成につきましては、博物館・美術館において展覧会や文化講座、学芸員講座、バックヤードツアー等を開催するとともに、博物館・美術館の魅力を高めるため、電子看板やタブレット設置による利用者の利便性の向上及び博物館常設展示室の展示改善、スマートフォン等による展示会情報の発信を強化するなど、県民等が訪れやすい環境づくりを行いました。

これらの取り組み等により、県立博物館・美術館の入場者は、現時点で目標値を上回っているところでございます。

359 ページをご覧ください。課題及び対策の部分ですが、20 行目です。

文化芸術活動の拠点となる県立博物館・美術館については、県民が活動しやすい環境づくりに取り組む必要があるとともに、伝統芸能等を発信する新たな拠点づくりにも取り組む必要があります。

総点検報告書(素案)の説明は以上でございます。

続きまして資料８をご覧いただきたいと思います。先ほど事務局から説明がありました検証シートの説明に入りたいと思います。

資料８の６ページをお開きください。一番上の将来像１ 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島の基本施策 1-(4) 伝統文化の保全・継承及び新たな文化の創造、施策展開が 1-(4)-ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくりについては、しまくとぅばを挨拶程度以上話す人の割合が成果指標となっております。

主な予算事業といたしましては、しまくとぅば普及センター(中核的機能)の設置・運営、あとしまくとぅば体験機会の創出でソフト交付金事業となっております。

成果指標のしまくとぅばを挨拶程度以上話す人の割合は、平成 25 年度の基準値 58%に対しまして、平成 30 年度の実績値は 49.8%となっておりまして、基準値より 8.2 ポイント減少しているということで、達成状況は進展遅れとなっております。

なお、総点検報告書(素案)の記述には、平成29年度実績値を記載しておりましたけれども、平成30年度の実績値がまとまりましたので、検証シートには最新の実績値を記載しているので御留意願いたいと思います。

実績値が基準値を下回った要因といたしましては、背景・要因の分析として右の表に記載しているところでございます。しまくとぅば普及推進計画に基づき、しまくとぅば普及センターの設置・運営のほか、県民大会の開催や普及人材の養成及び活用、しまくとぅばに触れる環境の整備等の取り組みを行ってまいりましたけれども、特に若年者層におきまして、しまくとぅばを挨拶程度以上話す人の割合が伸び悩んでいることなどから、進展が遅れているものと考えております。

続きまして、9ページの検証シートについて御説明したいと思います。施策展開1-(4)-イ 文化の担い手の育成につきましては、成果指標は県立芸術大学卒業者の就職率(起業含む)としております。主な予算事業といたしましては、教育研究事業費、芸大キャリア就職支援事業で県単事業となっております。

成果指標の県立芸術大学卒業者の就職率(起業含む)は、平成23年度の基準値58%に対しまして、平成30年度の実績値は67.3%で目標達成となっております。これも、先ほどのしまくとぅばと同じように、総点検報告書(素案)には平成29年度実績値を記載しておりましたけれども、最新の平成30年度末卒業の実績値がまとまりましたので、検証シートには最新の実績値を記載しているところでございます。

目標達成となった要因につきましては、右の欄の背景・要因の分析に記載しておりますけれども、芸術活動の継続を希望する卒業・修了生に対しまして、共同研究員などの大学のインキュベート機能を周知するなどの取り組みによるものと考えております。

卒業生の主な就職先といたしましては、伝統工芸、伝統芸能方面のほか、広告、印刷、ウェブコンテンツ制作、演奏家、音響関係など、学習した技術・技能を生かせる業種が中心となっているところでございます。

続きまして11ページをご覧ください。施策展開1-(4)-ウ 文化芸術活動を支える基盤の形成については、成果指標としては博物館・美術館の入場者数としております。博物館・美術館の入場者数は、平成22年度の基準値45万2,502人に対しまして、平成30年度の実績値は50万4,894人で目標達成となっております。

その要因といたしましては、観光客を含む県内外から幅広く利用者を引きつけるため、展覧会の内容の充実を初め、館内サインやホームページの多言語化等、利便性向上や情報

発信の強化に取り組んだ結果、展覧会入場者及びイベントへの入場者数は増加し、入館者数の目標であります50万人を達成したところでございます。

以上をもちまして文化振興課が所管する文化芸術の振興の説明を終わります。

【事務局　仲里班長(観光政策課)】

ありがとうございます。

続きまして、スポーツアイランド沖縄に関しましてスポーツ振興課から御説明をお願いします。

【事務局　金村スポーツ振興課長】

スポーツ振興課長の金村と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、審議テーマの中のスポーツ振興課が所管するスポーツアイランド沖縄について御説明をいたします。資料10をご覧ください。

目次の２ページ、第３章基本施策の推進による成果と課題及びその対策の中の２　心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指して(1)健康・長寿おきなわの推進、３　希望と活力にあふれる豊かな島を目指しての中の(2)世界水準の観光リゾート地の形成、それから(6)沖縄の魅力や優位性を生かした新たな産業の創出、５　多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指しての中の(4)国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築、それから(5)産業振興を担う人材の育成がスポーツ振興関係の該当箇所となっております。

時間の都合もございますので、該当箇所の中で当課の代表的な施策である２　心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指しての中の(1)健康・長寿おきなわの推進について御説明をいたします。

380ページをご覧ください。イ　「スポーツアイランド沖縄」の形成の成果等について御説明をいたします。

県では、スポーツアイランド沖縄の形成に向けて、県民がスポーツに親しみ健康の維持・増進が図られる生涯スポーツの推進、それから競技スポーツにおけるトップアスリートの育成、地域振興等に寄与するスポーツコンベンションの推進及びスポーツ環境の整備の取り組みを行っております。

生涯スポーツの推進につきましては、県民が身近な地域でスポーツに親しむことができるよう、スポーツ活動の拠点となる総合型地域スポーツクラブの創設・運営に対する支援などを行っております。これらの取り組みにより、スポーツ実施率(成人が週１回以上行う運動)につきましては、基準値から上昇はしているものの、目標値の達成に向けて一層の推

進が必要となっております。

それから、競技スポーツの推進につきましては、沖縄県体育協会と連携し、県内競技団体の競技力向上に取り組むとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えながら、県出身トップアスリートの育成強化に取り組んでおります。これらの取り組みを行ったものの、国民体育大会総合順位は40位台で推移をしておりまして、一層の推進、強化が必要となっております。

それから、スポーツコンベンションの推進につきましては、広報・誘致活動や国内外での誘客活動、スポーツイベントの創出、スポーツコミッション沖縄の運営支援などを行っております。これらの取り組みによりスポーツコンベンションの県内参加者数は、現時点で目標を上回っております。

スポーツ環境の整備につきましては、沖縄県体協スポーツ会館の整備や県立武道館等の奥武山総合運動場の改修、修繕等を行うとともに、地域のグラウンドの芝生環境の改善を行っております。これらの取り組みにより、県立社会体育施設の利用者数(奥武山総合運動場のみ)は基準値より増加しているものの一層の推進が必要となっております。

381ページをお願いいたします。課題及び対策について御説明をいたします。

まず、生涯スポーツの推進につきましては、スポーツの実施率が全国平均に比べて低い状況にあります。県民のスポーツ参加を促進する環境の整備が課題となっているところでございます。このため、総合型地域スポーツクラブ等を充実させることにより、県民の運動・スポーツの機会を創出していくことが必要であると考えております。

競技スポーツの推進につきましては、トップアスリートの育成や指導者対策、それからジュニア強化対策等が課題となっております。このため、一貫指導体制の充実や指導者の養成・確保、中体連・高体連との連携強化などを図っていくことが必要であると考えております。

それから、スポーツコンベンションの推進につきましては、施設の老朽化、附帯設備等の充実、新規受け入れが可能な施設の整備などが課題となっております。このため、市町村等と連携しながら施設の充実等を図っていくことが必要であると考えております。

また、スポーツコミッション沖縄につきましては、多言語対応や関係機関との連携強化を図るため、体制強化等が必要であると考えております。

スポーツ環境の整備につきましては、各種スポーツコンベンションに対応した施設の充実を図るほか、学校体育施設等の有効活用や公共スポーツ施設等の整備・充実を図る必要

があります。また、老朽化の進んだ既存施設につきましては、利用者の安全確保のための対策を計画的に進める必要があると考えております。

総点検報告書(素案)の説明は以上でございます。

続きまして、資料８の検証シートについて御説明をいたします。資料８の 20 ページをお願いいたします。

資料８の 20 ページ、将来像１　心豊かで、安全・安心に暮らせる島、基本施策 2-(1) 健康・長寿おきなわの推進、施策展開 2-(1)-イ　スポーツアイランド沖縄の形成については、成果指標は、スポーツ実施率、国民体育大会総合順位、スポーツコンベンションの県内参加者数、県立社会体育施設の利用者数でございまして、主な予算事業につきましては、社会体育活動支援事業ほか８事業で、県単事業とソフト交付金事業となっております。

成果指標の中のスポーツ実施率につきましては、平成 24 年度の基準値 39%に対しまして、平成 30 年度実績値は 41.4%となっており、2.4 ポイント上昇しているものの、進捗状況は進展遅れとなっております。

その要因としましては、シートの右側にございますが、スポーツ・レクリエーション祭の参加者数が増加するなど一定の成果が見られるものの、20 代から 40 代の若い世代のスポーツ実施率が低く、また運動する人と全くしない人の二極化の現状等もあり低迷しているものと考えております。

成果指標の国民体育大会総合順位は、基準値 40 位台に対しまして、平成 30 年度実績値は 43 位でほぼ横ばい状態となっております。達成状況は進展遅れとなっております。

その要因としましては、沖縄県体育協会と連携した競技力向上対策の取り組みより毎年優勝する選手やチームは出ているものの、指導者の養成・確保や一貫指導体制の導入の遅れ等もあり、総合順位が低迷しているものと考えております。

成果指標のスポーツコンベンションの県内参加者数は、平成 22 年度の基準値６万 6,739 人に対しまして、平成 29 年度実績値は 10 万 4,473 人で、現時点で目標値を上回っており、達成状況は目標達成となっております。

その要因としましては、スポーツコミッション沖縄を設置し、市町村や各競技団体等と連携した広報活動、それから歓迎セレモニー、特産品贈呈等に取り組んだことによるものであると考えております。

成果指標の県立社会体育施設の利用者数につきましては、平成 23 年度の基準値 47 万 2,000 人に対し、平成 30 年度実績値は 64 万 7,000 人と増加傾向で推移をしており、達成

は進展となっております。

その要因としましては、指定管理者と連携し利用者のニーズに沿った施設の修繕や備品整備、自主事業の推進等を行ったことにより、増加傾向で推移しているものと考えております。

スポーツ振興関係は以上となります。

【事務局　仲里班長（観光政策課）】

続きまして、海邦交流拠点の形成に関しまして、交流推進課から説明をお願いいたします。

【事務局　伊田交流推進課長】

交流推進課長の伊田と申します。恐れ入りますが座って説明させていただきます。

私どもが所管している海邦交流拠点の形成でございますが、資料 10 の目次で言いますと、５ページの４　世界に開かれた交流と共生の島を目指してが主なものとなっておりまして、世界との交流ネットワークの形成（614 ページ）、国際協力貢献活動の推進（622 ページ）となっております。

少し時間がないようなので、本当に代表的なものに絞って御説明します。40 ページをお開きください。本文は 615 ページです。

ア　国際ネットワークの形成と多様な交流の推進の成果等についてでございますが、まず 10 行目にございますが、多元的な交流を行うとともに、次世代のウチナーネットワークの担い手育成を行ってきております。

14 行目にありますが、ウチナージュニアスタディーといいますが、10 代の県系人子弟を沖縄県に招待し、中学生、高校生との交流を図る取り組みを行い、沖縄の歴史や文化を学びウチナーアイデンティティを深め、架け橋となる人材として育成を行ってまいりました。

24 行目でございますが、世界若者ウチナーンチュ大会では、各国の県系人の若者との交流を深めております。

42 ページ目、本文の 617 ページでございます。これらの課題が 25 行目にございますが、ウチナーネットワークの継承・拡大については、世代交代が進み、ウチナーンチュとしての意識、アイデンティティの低下が懸念されていることから、世界のウチナーンチュのネットワーク継承や次世代の担い手の育成に取り組む必要があるとしております。

43 ページ、本文の 618 ページ、世界と共生する社会の形成、あるいは国際協力・貢献活動の推進等がございますが省略させていただきます。

資料８でございますが、検証シートの 29 ページをご覧ください。将来像４の世界に開かれた交流と共生の島､4-(1) 世界との交流ネットワークの形成の中のア 国際ネットワークの形成と多様な交流の推進についてございますが、成果指標と達成状況につきましては、次世代ウチナーネットワーク参加青少年数については達成見込み、次世代ウチナーネットワーク参加者とのネットワークの継続につては進展、ただし、世界のウチナーンチュ大会イベント参加者数、あるいは関与の県内市町村数については進展遅れとしております。これらの主な事業予算は県の事業費、あるいはソフト交付金等を活用しております。

その背景・要因につきましてはシートの右側をご覧ください。進展遅れに絞って御説明しますが、世界のウチナーンチュ大会イベントの参加者数、あるいは県内市町村数でございますが、ウチナーンチュ大会はおおむね５年に１回開催されてきておりますが、直近の平成 28 年以降、次回開催予定、令和３年でありますが、現時点で少し率の計算上進展遅れとなっておりますが、次回の開催に向け一般県民向けの広報等を充実させ、目標達成に向けて取り組んでまいります。

あと、私どもの所管としては 31 ページの世界と共生する社会の形成、あるいは 34 ページのアジア・太平洋地域の共通課題に対する技術協力等の推進がございますが、時間の関係で省略させていただきます。

私どもからは以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

委員の皆さん、大丈夫ですか。ついて行っておりますでしょうか。

最初から申し上げていますけど、膨大な資料になっていますので、なかなか全体をこの時間だけで把握するのは難しいかなと思いますけれども、本日は文化、スポーツ、交流の３つの分野について事務局から説明をしていただきました。

検証シートの説明も一部端折った形で進めておりますけども、何か事前に確認したい点はございますでしょうか。

それでは、また後ほど見ていただきながら、それぞれの委員の皆様から御意見をお伺いしたいと思っております。

文化、スポーツ、交流という流れでありますので。私の左手から、まず文化、スポーツ、交流の皆さんの御意見をお伺いしながら、あとは観光の分野の委員の皆様からも一通りお一人ずつ御意見をお伺いしたいと思っております。

それでは、平田副部会長から御意見をお願いいたします。

【平田副部会長】

今、主たるものを読み上げていただきましたが、主たるものではないところが気になってしまって、読んでいるうちにどんどん遅れてしまったのですが、これは全部に言えることだと思います。

資料８の検証シートで、目標値があって、基準値があって、実績値ということで、基準値が多分スタートラインの最初の現状みたいな感じだと思います。

それに対して目標値は結構高かったりするのを意識しながら見ていましたが、進展遅れに関しては、例えば６ページのしまくとぅばは、ハード面の整備はかなりできて頑張っていると思います。センターをつくったりとか、そういう取り組みをやっていると思いますが、肝心かなめの次世代への普及であったり、あるいは広げるためのまさによくある表記法の議論であったり、そこら辺が少し遅れ気味なのかなという感じで、ここの中ではなかなか拾い上げるのは難しいですが、数字だけでは読み取れないところを読み込むのに少し苦労するかなという気がしました。

県民がこれを見る機会はなかなかないかもしれませんが、専門家が見てもわかりにくい、ここから何を読み取ったらいいのか、何を分析したらいいのかということが非常に困るなと思いながら読んでいました。

なので、僕はまだ漠然としかつかまえてなくて、今すぐにコメントができるわけではないですが、１個だけ文化で言うならば、10 ページ（資料８）ですが、芸大がかなり今頑張っているような気がします。アートマネジメントの分野をつくり、そしてキャリア支援をかなり充実させている面では評価が高いと思いますが、シンプルな疑問ですけど、いわゆる就職という形での取り組みは十分頑張っていると思います。でも、本来アートを目指している人たちが、就職だけではなくて自分で起業するとか、自分自身のセルフマネジメントをすることも今後必要な分野だと強く思うわけです。

でも、アート分野は就職しないで起業した人はこれに当てはまらないのかという形で、とかく議会とかでも言われるところですが、ぜひキャリア支援の中で、もしやっていたらごめんなさい。僕も思い込みですけど、何となくやってなかったような気がするのですが、「起業を含む」と書いてありますけど、その部分の数値化が本当にちゃんとできているのかなと一つ疑問に思いましたので、このあたりは少し問題提起をやっていきたいと思います。

つまりもし起業を含むのであれば、文化とは、文化の仕事だけではなくて、いわゆる病院であったりとか、あるいは自分自身が福祉関係とつながっていたりとか、これからどんどん文化の役割は、社会的課題に対して必要とされる部分が広がってくるのではないかと強く思っていますので、そういった中において起業するというのはこれから重要になってくると思います。

そういう視点を学生たちにどうしっかりと気づきを与えていけるか、芸大の大きな役割ではないかと思います。10 ページの政策ツールの中の事業の中でいうと、ぜひ芸大の就職キャリア支援の中の起業を含むのところに、そういった視点があるかどうか。

一方で、アートマネジメントの分野の中でそういうことを意識したカリキュラムが組まれているのか、今後組んでいく予定があるのかというところは確認したいと思いました。

スポーツは 1 点だけ、380 ページの 38 行目です。「また、芝生管理の専門的知識を有する人材を育成し、グラウンド芝生環境の向上を図るなど、スポーツ・レクリエーション環境の整備及びスポーツコンベンションに対応した施設の充実を図ったことで、サッカーキャンプの件数も過去最高となった」と。これはかなり重要なポイントだと考えています。つまり人材育成というところが本当に実を結んだ一つの事例だと思いますので、こういったところは注目をすべきだなと。

芝人（しばんちゅ）養成講座の立ち上げのころに私もかかわったことがありますけれども、これが本当に機能していて、そういった取り組みの成功事例がほかの進展遅れのところに対して、何かの示唆に富んだものがあるのではないかなと思うわけです。結論から言うならば、それをぎゅんぎゅんと回せばエンジンになるような団体あるいはちゃんとしたコーディネーターのような企業なり専門家がいたのが大きいポイントだと思います。

そういうカリキュラムを組んだおかげで、スポーツコンベンションの部分で言うと、サッカーキャンプの件数が増えたのは大きなテーマですし、読谷でも今度ラグビーのキャンプもありますけど、そういうところに影響が出ていると思いますので、成功事例を大きくクローズアップして、なぜ成功したのかも評価として見ていくと、恐らく課題抽出で終わらずに、成功事例に光を当てていく作業も必要だなということを感じました。

私からは以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。時間の都合もありますので、各委員一度御意見を伺ってから、事務局から補足説明があればそのときにお願いするという形で進めましょう。

大城委員、お願いいたします。

【大城専門委員】

芸能関係ですが、芸の継承をしていくということで、例えば伝統組踊保存会などは次代を担う方々に伝承者として頑張っていただいていますが、内部を見てみると随分と高齢の方々が伝承者として保存会で認められていて、高齢なものですからなかなか舞台に立つチャンスがないそうでして、組踊をする方々が非常に増えている一方で、事業の展開の仕方とか、伝承者の認定といいますか、そういうところで、人数だけたくさんいるけど、その中ですばらしい演技ができるとは言えないのではないかと、内部の方のお話を聞くとそういうことがあり、今年はたまたま組踊 300 年なので、そういうところでチェックしてもらうほうがいいのではないかとありました。

ですから、伝統芸能の継承がどうあればうまく展開していくのかというところを考えておかなければいけないと思います。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。富田委員、お願いします。

【富田専門委員】

ありがとうございます。まずたくさん資料をいただきましてありがとうございます。これを準備されるのも本当に大変だったと思います。

全体を伺って思ったことは、これは計画案ではありますけれども、ここにどれだけ実施できる具体的なアクションを盛り込めるのかがとても大事ではないかと思いました。

例えば今大城先生からもありましたが、組踊が今年こんなに華やかになっているのは、具体的にやはり芸大ができたことと、国立劇場ができたことがあって、爆発的に公演の数も増えましたし、それから人材育成が本当に具体的に進んだということもあるかと思います。

とは言っても、先ほどの就職率のことで前回も質問させていただきましたが、数が大変上がっていることは喜ばしいと思いましたけれども、全卒業生に対するパーセンテージではなくて、就職を希望する方の中のパーセンテージということもありますので、実際にはなかなか厳しいところがあるだろうなと思います。

ただ、これまでの沖縄の歴史を振り返ってみますと、必ずしも文化芸術に携わる人々がそれだけをなりわいにしてできた社会ではありませんで、ほかに仕事を持ちながら、例えば現在の人間国宝の先生方もサラリーマンをしながら芸を磨いてこられたと。

でも、どうしてこれができたのかと思ったときに、沖縄社会全体がそうした文化芸術に対する理解があり、例えば今年も私が演出する舞台で海外に行きますけど２週間ぐらいお休みをとります。そうしますと、本当に中小企業ですけど、法律事務所からスポーツクラブからコンビニエンスストアから、いろいろなところで働いている人たちを、それぞれの中小企業が送り出してくれるわけです。そういった温かな理解があって、何とかかんとか成り立っているところがあるかと思います。

ですから、もちろん就職率が上がることも大変重要なことでありますし、それぞれのアートに携わる皆さんが起業することも大切です。ただ、全ての人材をそこで面倒を見ることは難しいかと思いますので、例えばそういった理解のある企業の皆さんは県が認定をするとか、パトロン企業とかというステッカーをあげるとか、国税だと難しいかもしれないですけど、県の法人税とかの軽減とか、具体的な取り組みが必要ではないかと思いました。

もう１つ、しまくとぅばに関してもさまざまな取り組みがなされていますけれども、日常生活で私たちはしまくとぅばに触れる機会が大変少なくなっていますので、舞台の中でしかしまくとぅばは残らないのではないかという危機感もありますけど、イベント的に月に１回とか年に１回しまくとぅばに触れるよりは、日常生活の中にたくさんのしまくとぅばある中に私たちが身を置くと。その中でしまくとぅばのよさに気づき、強制的にというよりは、日常生活の中で自然に身についていくようなことはどうすればできるのかなと思っています。

例えばカナダのケベック州では、アメリカという大国が隣にありながらしっかりとフランス語を守り、フランス文化を守っている。なぜかなと思ったときに、あそこは鉛筆１本から道路標識から取扱説明書に至るまで、英語とフランス語と必ず２カ国語で表記がされています。そうすると、英語圏の方もフランス語圏の方も必ずこの２カ国語に触れることになる。それは日常生活、365 日 24 時間そういう状況にあると思います。

ですから、極力沖縄の中でしまくとぅばを残していくためには、イベント的な取り組みと並行しながら、どれだけ私たちの日常生活にしまくとぅばを残していくことができるかということで、すごく大変だと思いますけど、これこれこういう文章は日本語としまくとぅばの２カ国語表記にしましょうとか、こういう物品は必ずしまくとぅばを併記しましょうとか、そのくらい大変な力技をしないとなかなか実際に残していくのは難しいのではないかと思います。

教育の分野もそうですけれども、ラジオ体操が必ず全員できるように、沖縄県民全員か

ぎやで風は絶対に踊れますとか、かぎやで風はそらで絶対に歌えますとかというようなことを教育の中でも取り入れる取り組みが必要ではないかと思いました。

具体的なアクションをできるだけこの計画案に入れていくことを希望いたします。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

それでは一通り、多分言い足りないところがあると思いますので、後ほど補足をお願いいたします。

それでは、原田委員お願いします。

【原田専門委員】

私は資料８の検証シートの 20 ページについてコメントさせていただきます。

まず最初に、スポーツコンベンションの県内参加者数は、平成 29 年の時点で令和３年度の目標値を超えたということで、非常にいい成果を出していると。その裏にはスポーツコミッション沖縄をつくったと。

私も設立にかかわらせていただきましたけど、非常に大きな成果を上げているということで、アウターの政策ですね。すなわち県外から人を呼び込んで、経済の活性化を起こすという部分は非常にうまくいっている感じがします。

その一方、インナーの政策といいますか、沖縄県のスポーツ振興は、スポーツ実施率とか総合順位とかを見ても、まだまだ低い状況にあります。

今内閣府が中心になってまち・ひと・しごと創生交付金というのを出しておりまして、いわゆる総合戦略を国で立てています。それが各都道府県にこれから下りてきますが、次年度は 1,150 億円が分配されます。その中でことしの目玉にしようとスポーツ庁と一緒に動いているのがスポーツ健康まちづくりです。だからスポーツだけでなく、まちづくりという非常に包括的な視点から見ようと。

そうなってきますと、その中には官民協働の話とか、地域間連携とか、政策間連携とか、あるいは事業推進主体をこれからどうするか。総合型地域スポーツクラブとか、スポーツ推進員とか、実はかなり古い政策になりまして、うまくいっていない事例も多いので、例えば総合型を事業体にして、みずからお金を稼いで指定管理までやってしまおうと、そういう稼げる組織に変えていくのが今後の国の政策の一つにするように今努力しております。

あしたスポーツ議員連盟のプロジェクトチームの会議がありますので、そこから内閣府

へスポーツ庁と一緒にさまざまなアイデアを出そうとしておりますが、沖縄県もアウターは比較的うまくいっていますが、インナーをこれからやっていく、そういう部分は非常に重要ではないかと感じた次第です。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。石原委員、お願いいたします。

【石原専門委員】

石原です。丁寧な説明ありがとうございました。

全体を通して感じたことは、データをどう収集されているかがよくわからないので、明記してほしいというのが１点と、素案の大きなものの後ろに、成果指標を一覧に出してくださっていていいなと思って見てきましたが、まださらっと見ただけですけど、この指標でいいのかという点と、足りないところはないのかという見方で見ているところです。データに関してはこの２点です。

文化に関しては、後で多分ミゲールさんが言ってくださるのかもしれませんが、私は空手をやったことがないので妄想ですけど、空手に関してはすごいグッドコンテンツになる可能性があって、例えば 360 ページに、県外・海外から空手関係者がたくさん来ている状況の数値が出ています。その数値指標だけではなくて、来てどれぐらい滞在してくださっているのかという滞在する日数とか、呼んでいるから来られているのかもしれませんが、関係者以外で、私みたいに空手は全然関係ないけど、沖縄に来て空手を１週間で覚えられたらいいなみたいな、わけのわからない人でもいいので、来るようになればとてもグッドコンテンツになるのではないかと。

そのマーケティング戦略というか、ターゲットを絞ってデータをきちんととりながら見ていく戦略がこれからもっともっと必要ではないかなと。言いたいのは、数だけではなくてもっと中身がわかるようなデータのとり方をしたほうがいいのかなと思っています。

私少し黒くなったんですけど、２日前にハワイから帰ってきまして、ちゃんと自費で行ってきましたけども、泊まっていたホテルからきのうメールが来まして、「ホテルの滞在はどうでしたか。フィードバックしてください。うちのホテルあるいはハワイにとってはとても大事なことです」みたいなデータがとれるようになっていて、沖縄でもとっているのかもしれませんが、データを集めるシステムとか、集まったビッグデータを整理するみたいなことが今後できたら、その人のかゆいところに手が届くようなことになるのではないかと思いながら聞いていました。

スポーツに関して、資料８の 20 ページ、原田先生もおっしゃられていたところですけど、特に私はコーチのところでいろいろ調査していますけれども、スポーツの実施率が成人の週に１回しかないというのもそうですけど、子どもたちもそれ以前の問題で、体力も二極化していますし、スポーツの実施率も分かれています。小学校の前の幼稚園の時期からそうなっているというデータが出ていまして、多分沖縄も同じ状況だろうと予測していますけど、大事なことは、運動しようよと言ってあげられる指導者が必要で、そういう意味では、沖縄が安全・安心でみんなが健康になれるというベースになるので、指導者をどう育成するかのもっと具体的な対策が必要ではないかと。

特に沖縄の小学生は部活をします。部活を指導している指導者は、お父さん、お母さんが一生懸命されていますけど、ボランティアで仕方なくされていることが多いです。ちゃんと理論をわかって教えているケースがないことが多いので、全国的に同じ傾向ですけど、沖縄ならできるのではないかといつも思っていますが、少なくとも全員が資格を持てるような制度を県でつくってしまうとかすれば、もっと運動に親しめる子どもたちが育っていのではないかと思っています。

ちょっと短いですけど。

【下地部会長】

ありがとうございました。

どうぞ。

【事務局　新垣文化観光スポーツ部長】

空手については、伝統文化でもありスポーツでもありますが、空手については第３回と４回で改めて日程をとりたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【下地部会長】

どうしてかなと思ってみんなが多分…。

【ダルーズ専門委員】

もう話すことがなくなってしまったね。

【下地部会長】

ミゲールさんがせっかくボンジュールで来たのに。

【事務局　新垣文化観光スポーツ部長】

スポーツの観点でもあるし、伝統文化の観点でもありますけど、空手についてはさらに深掘りをしたいと思っていますので、事前にアナウンスしておく必要があるかなという意

味で行いました。

【下地部会長】

ナイスフォローをありがとうございます。

とはいえ、ミゲールさんがきょうお越しですので、言いたいことを全部言って帰ったほうがいいと思いますので、ぜひ御発言をお願いいたします。

【ダルーズ専門委員】

次回また話すことになると思いますが、私は最初はやり方がわからなくて、この分厚い本の空手という言葉を全部検索して、全部ピックアップして見たら、赤い枠の中から大体外れていますね。

なので、あまり意味がないかもしれませんが、気づいた点、資料 10 の 11 ページ、 文化芸術の振興とあるので、よく組踊とか琉球舞踊、歌劇を観賞する機会が少ないと書いてあって、一般県民も子どももだと思いますけど、354 ページの 11 行にありますけど、皆さんは気づいているかもしれませんが、舞踊とか組踊は見る県民はいますが、空手を見に行こうという県民はほとんどいないです。

沖縄で行われているのは、スポーツの大会か道場主催のイベント。子どものスポーツの大会を見る人はほとんどいない。武道館はいつも空っぽです。道場主催のイベントは、家族が見に来る以外は誰も来ないです。

なので、学校現場で、舞踊もそうですけど、空手を鑑賞すること、空手のすばらしさを見せること、これは空手だけではなくて芸能と組み合わせてもいいし、空手だけではだめかもしれないし、それを 354 ページに「組踊、琉球舞踊、琉球歌劇等の無形文化財を鑑賞する機会」、そこに「沖縄空手」を入れたらどうかなと思っています。

357 ページの 40 行に、「伝統文化の後継者が不足しているため」と書いてありますけど、これは舞踊だけではなくて、県内に空手道場は 350 あるとはいえ、高齢の方が道場主になっていて、やはり次世代をどうするかと。ただ道場を運営するのではなくて、今のニーズに合った運営の仕方を考えていかないといけない。

大概は道場を運営して、それで飯を食っている。ではそれが悪いではなくて、恐らく舞踊道場の運営も空手道場の運営も一緒だと思います。どうやっていいものを売っていくか、いい社会貢献することを考えていかないといけないので、次世代である道場の経営をどうするかという支援は県でやっていただければと思っています。

先ほど富田委員が全県民にかぎやで風と言ったけど、すみません、私は全県民に普及型

Ｉです。なぜそういう言うかというと、私の子どもが今 11 歳と５歳ですけど、夏休みで毎朝７時にラジオ体操させられていますよね。

なんでラジオ体操なのかと、普及型やれよと、私はいつも思いますけど、それも健康につながることもあるし､空手の普及､いわゆる自分の文化に対する意識と誇りが生まれる。そういう普及型Ｉの普及に取り組んでいただければと思っています。

きょうは３つあって、文化芸術とスポーツアイランドとネットワーク、ウチナーンチュのネットワークはもちろん知っていますけど、空手のネットワークは１億 3,000 万人と言われている。これは少し私大げさとは思ってはいますけれど、6,000 万人から１億人いるのは間違いないです。

なので、この人たちをどうやって引っ張っていくのか。沖縄県内に空手関係者は 7,000 人ぐらいしか来てはいないですけど、この夏、７月、８月だけで 2,500 人が来ています。なので、空手のネットワークをもっとつくっていって、沖縄に効果が生み出せるような環境をつくっていければと思います。きょうのテーマは空手ではないですけど、一応意見です。

【下地部会長】

ありがとうございました。空手についてはまた別の機会ということですので、改めてしっかり御意見をお伺いできればと思います。

それでは、交流の分野もありますので、佐野委員から御意見をお願いいたします。

【佐野専門委員】

ありがとうございます。４点申し上げます。

１点目は石原委員と同じですが、指標の実績値などの、数字の生データとまでは言いませんが、定義とか計算式が知りたいと思います。何と何を足し合わせてこういう数値になったのか。結局、達成できなかった要因分析にもつながっていると思うので、その中身をできれば開示していただけるとありがたいと思います。

２点目、これも既に出ているかと思いますが、定量指標が多いのは政策を評価するときには当然だと思いますけれども、定性的なところの視点が欠けているのではないかと。それは逆にいい評価にもつながっていくことだと思っています。確かに量を確保しなければいけない、量を達成しなければいけないものもあると思いますけれども、本来質を伴うべきというか、あるいは量が確保できなくても、質のところで前進があった、改善があったということであればいいのではないかというものもあると思います。

例えば今回、ウチナーンチュネットワークのところなども、数字はそこそこいいけどまだ達成できていないというところで、数字だけよりは、アイデンティティが強化されていくようなしっかりしたネットワークがつくれているのであれば、必ずしも人数が確保できていなくてもいいとか、各地に県人会があって、村人会があって、ちゃんとつながっているとか、そういうことも補足で説明できれば、多少数字が達成できていなかったとしても、十分県民の皆さんは評価をされるのではないかと思うので、質と量の部分のバランスのとれた説明をしていくほうが、県民の皆さんにとっても理解しやすいのではないかと思いました。

３点目、相変わらず指標の問題で恐縮ですけれども、指標の達成状況と、次の課題の関係性がよく見えない。例えば先ほど生涯スポーツのところで、まだ達成できていないということで二極化、生涯スポーツする人、しない人、それから 20 代から 40 代までがなかなかスポーツしないとなっていますけれども、そういう分析がある中で、資料 10 の 381 ページの課題及び対策では、引き続き「機会創出を図り」となっています。

でも、先ほどの検証シートで 20 代から 40 代までスポーツをしないとか、二極化されているときに、機会を創出することに一生懸命になっても、結局、結果はあまり変わらないのではないかなと思いますので、検証した結果と課題・対策のところが少し乖離があるように、今の記述では思います。

きっといろいろな検討がなされていると思うので、そこの検討プロセスというか、思考の過程を書いていただくとわかりやすいと思いました。

最後は私の担当の交流部分で、今日は時間の関係で説明を端折ってしまいますが、報告書の 644 ページ、５ 多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指しての(4) 国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築について。今日の御説明からは交流推進課は関与されてないように理解をしていますが、スポーツと文化のほうからは触れていただきつつ、ＪＩＣＡのカウンターパートである交流推進課から御説明がなかったのですが、ここはまさに国際性を持った教育、そういう子どもたちを育成していくということで、国際理解教育が非常に関係する部分だと思います。

ここは教育庁と一緒に管轄すると書かれていますので、もしかしたら教育の部会で議論されているのかもしれませんけれども、ＪＩＣＡが県と一緒に連携してやっている国際理解教育は、生徒が直接対象となる部分だけではなくて、教員の皆さんを海外に派遣したり、ＪＩＣＡボランティアとして県の方が現職で派遣されて、国際性を持った先生が戻ってき

て学校の現場で教えるということもできています。それにも拘わらず、今回の素案には全く触れられてなくて、少しもったいないなと思っています。

これは後で文書としても提出させていただきたいと思っていますので、ぜひ再検討いただければありがたいと思います。今は外国語教育と留学のことだけに特化していますので、もったいないなと思います。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

それでは、続きまして與那嶺委員からお願いいたします。

【與那嶺専門委員】

今御議論されていることを聞いて、その感想とか、さっき佐野委員からあったようなものと重複するかもしれませんが、文化の継承にしても、世界との交流等にしても、やはり若い世代、次代を担う子どもたちから力を入れていくべきものが多いのではないかと感じております。

先ほど佐野委員からもありましたが、財団が担っている事業の中にもいろいろございまして、例えば資料８の 29 ページから 32 ページまで、教育委員会が多いですけれども、この分厚い資料の中にも毎年 300 名近くの高校生を派遣して、そこで交流していると。

逆に我々財団の事業等を御紹介させていただきたいのですが、毎年少数ではありますが 12 名程度を海外のウチナーンチュとしての子どもたちを受け入れて、１年間大学とかに留学をさせております。まさにきのうから子どもたちが伊江島の家庭に２泊、ホームステイして、多分ウチナーンチュのチムグクルといいますか、そういうものを味わってきょう帰ってくると期待しております。

それと同じように、教育委員会がやっているような事業で行った子どもたちは、とてもかけがえのない経験をして帰ってきます。その部分の他部局との連携はどうなっているのかが気になったところでございます。

先ほどのしまくとぅばにしても、空手にしても、ある意味クリアしないといけない課題は、こういう連携なしにはできないのではないかと思います。例えば背景・要因の中にもあまり触れられてないところがあったものですから、少し気になったところでございます。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

それでは、小島委員、お願いいたします。

【小島専門委員】

小島でございます。こんにちは。たくさんの資料を本当に御準備大変だっただろうなと思いながら今も読んでおります。

まず今政治問題とかで香港とか韓国とかいろいろな問題が起こっている中で、一番観光がそういったものに影響されやすいのですけれども、影響されにくいものがスポーツであり、文化であり、そういったものではないかと思います。

海外の方もとても空手に興味を持って、沖縄に来られる方も多いですし、しまくとぅばについても､私ももともと沖縄出身ではないのでしまくとぅばはわからないですけれども、沖縄に住んでいてもなかなかしまくとぅばに触れる機会もないので、伝統文化とあわせてしまくとぅばに触れるところ、あと空手もそうですけれども、伝統文化の継承にしてもそれを披露する場所も少ないです。

話が飛び飛びになりますけど、ナイトコンテンツについて最近触れる機会が多いですけど、海外からの意見も多い。また、ナイトコンテンツを始めたのですが意見を聞かせてほしいというところで、いろいろ見に行かせていただいたりします。

ただそれも内容はとてもよくて、頑張ってらっしゃるのもすごく伝わってきますけれども、お客さんはがらがらだったりします。あるところで満席のところがありました。そこのお客さんの内容を見ると、県内の方が多かったです。これはいいなと思いました。海外の方、それから県民の方が一緒に楽しめるような、文化観光を推奨できるような施設ができればいいなと本当に思いました。

ただ自力走行するというか、そういった部分では非常に大変だと思います。演者さんへの毎日のお給料とか会場費とかを考えたときに、いくらで売らなければ引き合わないんだろうと。数名しかいなかったりするわけです。

海外のお客様もナイトコンテンツがない、夜行くところがないよと言って、そこをのぞいてみたけれども、１ 人、２人のところは非常に寂しいですよね。そこの時点でもうこれはという感じで、二度と行かないみたいな感じになるわけです。

だから、満席になるような披露する場所とか、そういったところで場所の提供、演者さんが毎日できるところ、それから空手も含めて触れられるようなところができるといいなと非常に今思っています。

いろいろな資料をたくさん準備していただいた中で、具体的にそれについてどう思うと

いう意見でなくて申しわけないですけれども、よろしくお願いします。

【下地部会長】

ありがとうございました。

続きまして前田委員、お願いいたします。

【前田専門委員】

前田です。よろしくお願いいたします。

私からは２点です。まず１つは、皆様からも出てましたけれども、数字の根拠がわかりづらいのがありまして、２つ言わせていただきます。

まず資料８の 20 ページで、スポーツコンベンションの県内参加者数が目標達成となっていますが、多分ここはスポーツアイランド沖縄の健康・長寿のためのスポーツの部分と、あとスポーツコンベンションのコンベンションが何かわからなくなってきました。

地元の方々にスポーツをさせる、見る、地元の人たちがやる、スポーツを楽しむ人がこれだけいましたなのか、キャンプに来たプロ球団を見に来た県内客のことなのかとか、よくわからなくなりました。ここは多分健康・長寿おきなわの推進の中のスポーツアイランド沖縄の形成の項目の数字ですからスポーツをした人？そういいつつ 380 ページはサッカー場を整備して、グラウンド、芝生向上でよくなったと言ってましたけれども、県民向けのスポーツとプロサッカー誘致のスポーツとの難しさがここにあらわれているのかなと感じました。

というのは、例えば 380 ページのスポーツアイランド沖縄の形成のところでいうと、さっき平田副部会長もおっしゃっていたように、本当に芝んちゅ事業で成功したところと、成果を出してないところが歴然と分かれています。それは何かというと、結局自治体のグラウンドというか、市営、町営球場なので、市民が使う為の施設というスタンスの中、よほど自治体の強い意志がないとプロ仕様の施設の維持管理はだめだなととても感じています。

なので、先ほどおっしゃっていた読谷とかの成功事例を本当に広くもっとアピールするなり、ほかの自治体にもこれだけしっかりと手入れすることがいいんだよという啓蒙をしてほしいのですが、それは果たして町民の健康やスキルアップののスポーツのためなのか、サッカーキャンプ誘致して経済効果に資するためなのかで、多分説得力で悩むところがあるのかなと感じました。自分も感じています。要は町営で町民の為の施設だから、予算がないから芝をこれだけ手入れできないと言われるんですね。

なので、ここで一括りに県民のスポーツ、見る、参加するを醸成する場所と、芝生の整備をしてキャンプが増えましたというのが同じページにあることに少しジレンマを感じています。でもそれが文化観光スポーツ部の難しいところでもあると思います。

なので、この県内参加者数の根拠を知りたい。同じく、ここで国民体育大会総合順位について、現在43位だけどもっと強化して、体育大会で上位に上げたいから強化する為に良い施設をというのであれば…、ごめんなさい、何を言いたいのかわからなくなってきましたけど、プロを誘致する程のレベルの高い施設の質と、地元の市民や子供達がスポーツを愛しスキルアップに使用するレベルの施設の質なのか、グラウンドとかスポーツ施設のプロが求めるレベルと自治体が十分と思うレベルの違いというのを本当にまざまざと多分皆さん感じてらっしゃる自治体は多いと思います。なので、そこをどう整理していかなければいけないのかなというのも感じたので、このページの数字はどこに立ち位置を持って見ればいいのかなと思いました。

あともう１つはしまくとぅばですけど、私もしまくとぅばの達成率は何から来てるのかなと思ったのと、さっきどなたかからも出てましたけど、目標値が挨拶程度話せる人の割合の挨拶程度というのはどのレベルをいうのだろうというのもよくわからなくて、「ハイサイ」「ハイタイ」が言えれば島くとぅばを話せる人なのだろうか？とか、どのシチュエーションでどれだけ話せれば話せる人なんだろうかとか基準がわかりません。なので、これだけは絶対県民誰でも言える、歌える方言みたいなものがあると、具体的でいいのかなと思いました。

あと、地方によってもしまくとぅばが違うので、どれをもってこれだけしゃべれたと言えるのかも、何が基準値なのかがよくわからないので、具体的なこれは絶対沖縄だろう、本島だろうが離島だろうが北部だろうが、どこでもしまくとぅばのこの言葉、歌の意味だけはわかるみたいなことの浸透を図るのもいいかなと思いました。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

それでは當山委員、よろしくお願いします。

【當山専門委員】

皆さんこんにちは。ホテル協会の當山でございます。

前回しゃべりすぎましたので、私はきょうは多分控えている東さんに時間を譲りたいと思います。前田さんが真剣にこんなに考えているのに、少し僕困ってます。先ほどアカデ

ミックな方々の話をいただいて、私は観光人としてビジネスシックにいくつか。

我々の使命は資料８の検証シートに対する新たな課題とか文言の提案とかですよね。これは真剣に考えてきたいと思っています。まずとても勉強になったのが資料８の６ページです。特に指標の２番目、文化財の指定件数は、我々観光人からすると、競合地域との比較においては数と質を増やしていきたいというのが我々の今目指すところです。

観光でいったら、県民がこぞって沖縄の宝物探しの時代に入ったと思っていますので、文化財の指定というのは沖縄の宝物の数と多分一緒でしょうから、今進展中になっていますけれども、ここはぜひ日本で一番たくさんの宝物の数にしていきたいなと思ったところです。

それと、前田さんからもありましたけれども、しまくとぅばに関していくと、前田さん、我々ホテルは、ハイサイ、ハイタイ、これやりますか。みんなでまずは。そこからのような気がしますけど。

実は 20 年前にうちのホテルでやったんです。浮きましたね。時代がついてきてなかったです。だから、そういう意味でいくと、教育やさまざまなものになっていますけれども、そろそろ具体的にしっかり啓蒙して、日常的に使っていくというアクションの指標になってもいいのかなという気がします。

ぜひ我々ホテル協会も、旅行エージェントもありますけれども、ハイサイ、ハイタイから始めるべきかもしれませんということを感じました。

それから資料８の 11 ページ、指標が県博や美術館、国立劇場おきなわの入場者数になっています。指標としてこれはこれでいいのかなと思っています。この指標を増やすことがツーリズムの世界で文化ツーリズムに参加をした方々の指標になるので、ぜひ組踊を組み入れた商品の創製に次のステップとしてどんどん行って、目標の数字をどんどん高めていくことでいいと思います。

それから 20 ページのスポーツアイランドです。ここは上位に健康・長寿おきなわの推進とありますから、長寿おきなわというのはもうなくなった感がありますけれども、ツーリズムの世界ではとても重要な要素になっています。

ただ、成果指標の１から５がピンと来ないんです。何か大会の順位であったりとか、参加人数とか、施設の利用者数とかになっていますけれども、ツーリズムの観点からいくと、持続的な生涯スポーツとしてのライフスタイル化がとても重要かなと、この指標で果たしていいのかなという気がしています。これはどちらかというと競技スポーツに近いような

指標になっているような気がします。

時速５キロのウォーキングであったり、トレッキングであったり、時速 15 キロの自転車であったり、参加型スポーツの指標としてツーリズムの世界でもとても重要な要素になってきていますから、そろそろそういうものも指標の中に入っていいのではないかと思います。

あとは、あまり長くすると東さんの話がなくなるので、この辺で譲りたいと思います。あとは東さん、よろしくお願いします。

【下地部会長】

よかった。ありがとうございます。

では東委員、お願いいたします。

【東専門委員】

皆さん、こんにちは。もう個別のことについては言い尽くされたような感じなので、私からは、もしかして前回この辺は説明があったのかもしれないですけど、総点検を何のためにやっているかというのは、次期振計のためにやっていると思います。

ですから、今、世の中の変化が激しいですから、企業では３年間の事業計画はつくれない状態です。経営コンサルタントに行っても、事業計画をつくること自体が間違っていると言う人も今いますから、そういった部分では、10 年前に策定された 21 世紀ビジョン、私もど真ん中にいましたので､別に総点検するのは絶対に無駄にはならないとは思います。ただ次にどうつなげるかを常に意識して点検していかないといけないと思います。

もう少し言うと、100 点で達成したものであっても、次期振計にはもう載せないものもあるでしょうし、もっと高度化しないといけないものもあるでしょうし、自走させてしまって外していくものもあるでしょう。

また進展遅れの部分も､もう１回チャレンジして次の 10 年で本物にしていくものもあるでしょうし、時代の要請にそぐわなかったのでもうこれはやめましょうというものも出てくると思います。

ですから、達成したかどうかということと、次につなげるかどうかとは別問題だとみんな認識しないと、もちろん大切だけれども達成できてない、これは何かということを検証するのはとても重要なことだと思いますけど、達成したものが目標が低かったのかもしれないということが出てきますので、そういう意味では俯瞰的な目で見ていかないといけないと思います。

次に、恐らく６次振計ではＳＤＧｓであるとか、Society 5.0 とか、またはデジタルの部分がたくさん出てくると思います。第５次の部分での断捨離で捨てていく部分も出てくるということも考えないと、積み上げていくだけでは限られた予算と限られた人員の中でやっていくのは非常に厳しいと思います。

ですから、そういうことを念頭に置かないといけないのではないかなと思いました。

私は観光のほうで少しだけ意見は出したりもしていますけれども、細かいことは、これぐらいにしようかなと思っています。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。お二人の協力のおかげで少し早めに進んだような気がします。ありがとうございました。

私から短く２点だけ。

今お話があったように、データの根拠というのはなかなか資料を見せられるだけでは難しいなというところがありますので、その根拠は別の形でこういう中身だというのがわかればいいなとまず思いました。

今、東委員からもありましたけど、資料を見ていると、目標があって達成したとなってしまうと、もうこれで何か終わったような感じがしてしまって、実はもともとの目標の設定がどうだったのかは検証しないといけないのではないかと思っています。

例えば一つの例でいうと、11 ページに県立博物館・美術館の入場者数の目標が 50 万人に対して、実績が 50 万 4,000 人で目標達成となっていますけど、首里城が 200 万人以上、美ら海水族館だと 500 万人以上で、この 10 年の沖縄の観光の大きな伸びという中で考えれば、県立美術館・博物館は、結果的に 100 万人を超えるぐらいになっていて初めて目標達成と言えるのではないかと、例えばそういうことも考えていかないと、基準年と目標年と現状の達成状況にあまり左右されないことも必要ではないかなと思いました。

あと数字の件に関しては、確かに計画をつくるときに私も県にいて、とにかく定量的に示すことが大事だということで、数値目標をとにかく入場者数とか参加者数、そういうことをずっとやって、これがわかりやすい指標だと言ってきましてけれども、次の振計に向けては、量から質へ、量と質のバランスを考えたときには、先ほど各委員からもお話がありましたけれども、やはり質を意識した指標が、指標の中で明確に分かれるような、定性的な意味合いを含んだ指標が、目標値にしっかり見えるようになっていかないとなかなかわかりにくいのではないかなと。

これまでなかった満足度とか、全然別の指標がこれからは必要になってくると思いますので、こういったところも次に向けては検討が必要ではないかなと思いました。

それでは、残りの時間を、きょうの委員の皆さんの御発言に対して全て事務局からお答えすることは難しいと思いますけれども、今３つの分野、文化、スポーツ、交流の分野について、それぞれの事務局から、もしきょうの段階でお答えできる点があればお願いをしたいのですがいかがでしょうか。

議会答弁ではありませんから、少し楽に答えていただければ。

【事務局　新垣文化観光スポーツ部長】

いろいろな意見ありがとうございました。

時間がかなり押しているので、もしかしたら具体的に芸大とかの話をしたほうがいいのかな。どうしますか。

今下地委員がおっしゃったように、あるいは各委員の皆さんがおっしゃったように、今回の成果指標については、今回の計画をつくるときに定量的につくるのが非常に県民にとってわかりやすくて、達成が目に見えてということがあったのでおおむねそういうことになっています。

ですので、今後どうするかというところで、改めて委員の皆様方の意見を踏まえながら検討してまいりたいと思いますし、個別具体でもっとインナーの話もありましたし、よりアクションを具体的にというお話もありましたので、そういったところはしっかり取り組んでいきたいと思います。

それから、しまくとぅばにしても、空手にしても、伝統芸能にしても、今まで取り組んできたことがさらに定着していくためには、全体でのさらなる取り組みが必要だし、教育委員会も含めて、あるいは県民が全体で参加できるような取り組みが大事かなという意見があったかと思います。

そういった意見につきましても、東委員がおっしゃるように次の振計に向けての作業がまさに今の作業ですので、そういったところを踏まえながら、次の振計に向けて、よりよいことに取り組めればいいなと思います。

前田委員からありましたスポーツにつきましては、本当に１回目のときもありましたけども、スポーツアイランドを標榜して政策を進めている中で、今回の 21 世紀ビジョンにはそういったところが表に全然出てこないと。

スポーツについてはプロ化の面もあるし、それについては産業化の面もある一方、県民

の健康・長寿という視点もあって、今回の計画ではそこの中に溶け込んでいるところもございます。

次に向けて、その辺の整理は非常に大事かなと思っておりますので、さらに各委員の皆様からの意見も踏まえながら、次の取り組みができればいいなと思います。

博物館・美術館からそれぞれ一言ずつあれば、博物館、何かありますか。

【事務局　金城博物館・美術館副館長】

せっかくですので、副館長の金城と申します。委員の皆さん、本当にありがとうございます。

博物館・美術館、目標は達成したということですけれども、先ほど部会長からありましたように、博物館でも今は入場者数だけではなくて、実を言いますと、例えば教科書であったり、出版社だったり、映像の会社だったり、いっぱい博物館の資料を提供して世の中に出て行っているものがあります。

しかも、今までは琉球王朝の歴史がメインの博物館・美術館でしたけども、最近、港川人とかサキタリ洞とか、日本の教科書そのものがどんどん塗りかえられていっているようなことがあります。

ですから、次期振計には入館者数だけではなく、いかに日本国民に文化を提供しているかというのも、測りにくい指標ではありますけど、ぜひ検討していきたいと思います。

それともう１点、外国対応ですけども、去年、韓国語、中国語、それから日本語、英語のホームページを改良しまして、まさにうなぎ上りでアクセスがあります。そして去年からキャッシュレスを実施しております。そしてちょうどきのうから自動券売機を４カ国語対応にしており、どんどん改良を重ねていって、利用者の利便性も提供しておりますので、今後とも博物館・美術館をよろしくお願いしたいと思います。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

【事務局　新垣文化観光スポーツ部長】

芸大から１点、就職支援についてだけ少し話しさせてください。

【事務局　比嘉県立芸大教務学生課長】

委員の皆様、ありがとうございました。芸大の教務学生課、比嘉と申します。

芸大の就職率に起業を含むとありますが、平成 30 年度で言いますと、就職者数 35 名に対して、学部生、卒業生１人だけが自営業者です。アルバイトをしながら演奏活動、芸術

活動でやっている方はここには入らないです。一時的な仕事についたとか、統計的なところがあります。こちらは自営業一本でやっていく方が就職率に入ってきます。ですので、まだまだ少ない数になっております。

それで、芸大でも自分の将来を考える、自分の学んできたことをどう生かしていくかを考えてもらうキャリア支援事業や、各先生方の授業の中でもそういうことを意識させながら学んでいるところですが、起業という視点をまたさらに充実させて、カリキュラムの中に反映させながら芸大でも学生に教えていきたいと思っております。

もう１点、芸大で学んだ能力や資質を生かす分野、広告やデザインなど、音楽関係の分野に進む学生が多いところもありますが、去年から福祉の企業と学生のマッチングとか、流通の分野とか、さまざまな分野が芸大の学生の力を必要としているという声をよく聞くようになっています。それで、学内合同企業説明会にいろいろな業種の企業をお呼びして学生とのマッチングを図っているところです。

そうすることで、学生自身にも、学んできたことがいろいろな面に生かせることを意識させながら、またいろいろなところで活躍できる場があることを意識させながら、就職率や就職活動を支援していきたいと考えております。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

時間の都合で事務局と委員とのキャッチボールがきょうはできませんが、きょうの委員の皆さんの発言に対して、事務局でそれに対する基本的な考え方を少し整理していただければ、できれば次回の前に一度示していただけると、次の委員会が少し楽に進むかなと思います。

きょうの式次第では、もう１点②で、ほかの部会での審議状況で、文化観光スポーツに関連するところがあるということもありますので、事務局から簡単に説明をお願いいたします。

②審議結果（案）

【事務局　仲里班長（観光政策課）】

簡単に御説明をさせていただきたいと思います。

お手元の審議結果（案）という資料をご覧いただけますでしょうか。

こちらにつきましては、今部会長からもございましたとおり、他の部会から書面にて修正意見が出ているものの現時点で取りまとめた資料となってございます。

現在３つ出てきておりますけれども、恐縮ですが２と３につきましては現在関係課で対応について検討中でございまして、１につきまして簡単に御説明をさしあげたいと思います。

こちらは、離島振興の産業振興で観光に関する部分ですけれども、第２章の 221 ページになります。

「県外において知名度が低い小規模離島については、観光客の増加に向けた重点的な支援が必要である」という記載がございましたけれども、こちらにつきまして、認知度が低い小規模離島については、観光客の増加とあわせまして、「観光客一人当たりの消費額の増加に向けた重点的な支援が必要である」と修文してはどうかとの御意見がございました。

理由としましては、こちらに書かれているとおりでございますけれども、さまざまな問題の対応につきましては、地域住民、地域行政が負担しているけれども、観光客も相応の負担が必要である。そのため小規模離島への観光客数の増加に向けた支援を展開する際には、数の増加に向けた施策にとどまらず、一人当たりの消費額の増加に向けた施策が必要であるという観点からの御意見となっております。

その結果としまして、こちらは(案)ですけれども、221 ページの同じ８行目の部分を、「それぞれの個性や魅力を活かした誘致活動による」観光客の増加と「一人当たりの消費額の増加」の文言を加えて、下記のように修文したいと考えております。

県外において知名度が低い小規模離島については、それぞれの個性や魅力を活かした誘致活動による観光客の増加及び観光客一人当たりの消費額の増加に向けた重点的な支援が必要であると(案)を作成してございます。

私からは以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

予定していた時間を少し過ぎてしまいましたけど、せっかくの機会です。県外から来られた原田委員、最後に何か一言。

【原田専門委員】

私は空手のブランディング委員会にも出ておりまして、スポーツ庁で武道ツーリズムの検討が始まりましたので、多分いい形で相乗効果で、日本の武道ツーリズムの発展に沖縄が中心になって寄与していただけるのではないかなと思いますので、次回の議論を非常に楽しみにしております。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

言い足りない点は、またすぐ次の部会が回ってきますので、ぜひ御参加の上で御発言をお願いしたいと思います。

委員の皆様、御協力をどうもありがとうございました。

それでは、事務局に戻します。

２.事務連絡（今後の日程等）

【事務局　仲里班長（観光政策課）】

下地部会長、どうもありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましては長時間の審議、また少し事務局からの説明が長くなりまして、お時間が短くなりまして恐縮でした。長時間の審議まことにありがとうございました。

本日いただきました御意見等を踏まえまして、第３回文化観光スポーツ部会において必要に応じて回答したいと思います。

前回の第１回目の議事要旨も資料 11 としてお配りしておりますけれども、いただいた御意見の中で今後修文が必要かどうかという部分に関しましては、また個別に御意見をいただきました委員の皆様と御相談させていただきたいと考えております。

具体的な修文（案）がございましたら、ぜひ様式でお出しいただけますとスムーズかと思いますので、御協力をいただければと思います。

なお、第３回の文化観光スポーツ部会につきましては、来週になりますけれども、９月 12 日・木曜日、15 時から 17 時、同じ場所で開催を予定しております。正式な通知につきましては、後日お知らせさせていただきたいと思います。

それでは、以上をもちまして本日の沖縄県振興審議会第２回文化観光スポーツ部会は終了とさせていただきます。

委員の皆様、本日はお忙しい中御出席いただきまして、まことにありがとうございました。

３．閉　　会